

平成27年度 上半期自己評価のまとめ

さくらんぼ保育園

1.目標について

保育の専門性を持ち、丁寧な手立てや援助を大切にしていきたい、担任間で連携して保育を語り合うことで悩みや喜びを共感していきたい。又、保育者自身が心や時間にゆとりを持って子どもと関わり、丁寧な対応を心がけたり、安全に怪我のないように配慮していきたいといった保育への姿勢や、責任をもって自分の任務にあたり、学びや努力を惜しまずがんばりたい、保育運動や平和を守る運動に力を入れたい等、自己研さんについても前向きな目標を持ち、職員集団の仲間の中でお互いに保育を高めていこうとする真摯な目標を掲げていた。

2.評価について

職員一人ひとりが真摯に自分の保育を振り返り、受け止めて評価している。発達を学んで保育実践につなげたいと意欲的に学習しようと努力したり、職員間で響きあって子どもにとってより良い保育の手立てを探ろうとする前向きな姿勢が感じられる。時には目の前の事に追われ見通しが持てなくなり、心にゆとりも無くなり、学習する意欲も余裕も持てない等の悩みが率直に訴えられている。仲間を受け止めて励まし、一緒に考え、お互いに刺激し合って高まりあっていこうとする職員集団があり、一人ひとりを支えているように感じる。

3.自分の任務に対して

担当しているクラスの保育や役割については責任をもって取り組んできた。また、課題を感じる職員もいたが、皆で分担しあったり、保護者や仲間の意見等に素直に耳を傾けて保育を振り返ったり、言いにくいことでも伝え合うことでより良い保育を目指してきた。

4.今後の課題・目標

子どもを見る目、保育を見る目の力をつけながら“気づき”を皆で話し合っていきたい。

“運動と実践を両輪”と位置付けて取り組んでいく、保育士としての専門性を高め、自分自身を磨いていく等の自己研さんを課題として持っている。組織の一員としての自覚を持ち努力する、保護者との対応でも信頼関係を深めていきたいなど、上半期を真摯に振り返って、意欲的に見通しをもって下半期に臨みたいという思いが職員一人ひとりに感じられる。

5.その他

- “子どもが一番”と保育の話が職員間でたくさんでき、仲間がいるから大丈夫という思いで保育ができる。支え合いながら働くこと、多くの人助けを得て仕事をしていることに感謝している。
- リフレッシュしながら身体を大切に健康に楽しく保育をし、魅力的な保育のために、感性を磨いて魅力的な人になりたい。
- 日々の保育の中で、あそびや製作などの活動の後始末や保育室内の環境整備、といった点で意識が弱い部分があったのではないだろうか。子どもたちに習慣として身につけてほしいことが大人である自分たちにできていただろうかと振り返る声も挙がっていた。
- ほう（報告）れん（連絡）そう（相談）は基本だが、1人ひとりにその自覚がないと全体のものにならない。クラス保育を一生懸命に取り組むのはもちろんの事だが、延長時間帯の混合保育や土曜日保育等でも、組織の一員として自分が果たす役割を自覚して、よりよい保育や運営の基本となる「報告、連絡、相談」を大事にしていきたい。